



地方幹線道路網改良事業(3)

地方幹線道路の4車線化により、地方経済開発および近隣諸国との経済交流の促進を支援

【外部評価者】

OPMAC株式会社 宮崎 慶司

レーティング

有効性・インパクト	b	総合評価 A
妥当性	a	
効率性	a	
持続性	a	

本事業の目的

タイの南北回廊、東西回廊に直結する幹線国道を総延長約343kmにわたり2車線から4車線に拡幅することにより、増加する交通需要への対応、走行速度の向上、および交通事故の減少をはかり、もって地方経済開発の促進、および近隣諸国との経済交流の促進に資する。

借款契約概要

- 承諾額／実行額：195億4400万円／170億6800万円
- 借款契約調印：2000年9月
- 借款契約条件：金利2.2%、返済25年(うち据置7年)、一般アンタイド[コンサルティングサービス部分は金利0.75%、返済40年(うち据置10年)、二国間タイド]
- 貸付完了：2007年1月
- 実施機関名：運輸省道路局(DOH)

本事業実施による効果(有効性・インパクト)

2008年における本事業対象7区間の計画交通量に対する実績交通量の達成度は、ピサヌローク〜ウットラディット区間(国道11号)が37%、コンケン〜ノンラ区間(国道12号)が61%、バンパイ〜ボラブエ区間(国道23号)が31%、コンケン〜チャンユエン区間(国道209号)が44%、チャンユエン〜ヤンタラット区間(国道209号)が85%、ムクダハン〜ニコンカムソイ区間(国道212号)が56%、ドンサック〜シチョン区間(国道401号)が54%、ナコンシータマラート〜国道41号ジャンクション区間(国道403号)が63%であり、目標達成には至っていなかった。一方、すべての対象区間で実施前に比べて実施後の所要時間が4分の1から2分の1に短縮し、平均走行速度も約3倍に向上した。また、円滑で効率的な物流の実現、地方経済開発の促進、近隣諸国との経済交流の促進等のプラスのインパクトについても認められる。本事業の実施により一定の効果発現が見られ、有効性は中程度である。

妥当性

本事業の目的は、審査時および事後評価時におけるタイ国家開発計画、道路部門の開発計画、およびメコン地域開発と整合性があり、また事業の優先度も認められる。また、開発ニーズとの整合性もある。本事業の実施は審査時および事後評価時ともに、開発ニーズ、開発政策と十分に合致しており、事業実施の妥当性は高い。

効率性

本事業のアウトプットはほぼ計画どおりに実施され、かつ、2区間の拡幅工事が追加された。事業期間は若干計画を上回ったが、事業期間は計画内に納まっており、追加工事を考慮すると、効率的に実施されたと判断される。

今後の展望(持続性)

本事業は実施機関の能力および維持管理体制ともに問題なく、高い持続性が見込まれると評価される。本事業の運営・維持管理機関は、DOHであり、具体的には全国の国道管理支社、および国道管理地方局・地方事務所が事業対象区間の維持管理を実施している。

結論と教訓・提言

以上より、本事業の評価は非常に高いといえる。提言として、事業の持続性をいっそう高めるために、DOHは2009年中に導入予定の独自の舗装維持管理システム(PMS)を活用し、効率的な維持管理予算の配分を含む、効果的な運営・維持管理システムの構築を推進することが挙げられる。



拡幅された国道403号(ナコンシータマラート〜国道41号ジャンクション)

※ 本件を含むすべての事後評価報告書は、JICAウェブサイトの「事業評価→事後段階の評価(事後評価・事後モニタリング)」からご覧いただけます。(URL:<http://www.jica.go.jp/activities/evaluation/after.html>)